

事務事業の概要

事務事業名	スポーツ活動振興事業	担当課	企画振興部スポーツ振興課																																																	
対 象	市民	事業期間																																																		
目 的	スポーツ組織・団体を支援し世界で活躍するスポーツ選手を育成する。また各種イベントを支援し、市民のスポーツに対する意識の向上と地域の活性化を図る。																																																			
根拠法令等																																																				
内 容	・スポーツ競技の全国大会出場者に奨励金を交付しました。(26件、70人) ・社会体育振興事業並びに青少年スポーツ活動育成事業を実施しました。 ・東京2020パラリンピック聖火フェスティバル関連事業実施(8/13伊賀焼の郷長谷園登り窯前) ・市民参加型スポーツイベントを1回開催しました。 11/15～11/28伊賀上野シティマラソン(オンライン方式による)1,003人 ・みるスポーツ事業への支援として、伊賀FCくノ一の活動を支援しました。																																																			
事業に要した 主な経費 など	<table><tr><th>経費</th><th>金額</th><th colspan="2">摘要</th></tr><tr><td>報酬</td><td>318,000円</td><td>スポーツ推進委員報酬</td><td>円</td></tr><tr><td>報償費</td><td>380,000円</td><td>全国大会出場選手奨励金 ほか</td><td>350,000円</td></tr><tr><td>委託料</td><td>7,791,216円</td><td>社会体育振興事業委託料(伊賀市スポーツ協会)</td><td>3,997,408円</td></tr><tr><td></td><td></td><td>青少年スポーツ活動育成事業委託料(伊賀市スポ少)</td><td>3,100,000円</td></tr><tr><td></td><td></td><td>円 美し国三重市町対抗駅伝事業委託料 ほか</td><td>397,780円</td></tr><tr><td>備品購入費</td><td>24,200円</td><td>オリンピック採火イベント用ハクキンカイロ</td><td>24,200円</td></tr><tr><td>負担金・補助金及び交付金</td><td>8,513,987円</td><td>伊賀上野シティマラソン事業補助金</td><td>1,600,000円</td></tr><tr><td></td><td></td><td>円 伊賀市スポーツ協会運営補助金</td><td>3,305,000円</td></tr><tr><td></td><td></td><td>円 伊賀フットボールクラブくノ一運営助成金 ほか</td><td>3,608,987円</td></tr><tr><td>その他</td><td>111,406円</td><td>需用費、役務費、積立金</td><td>円</td></tr><tr><td>計</td><td>17,138,809円</td><td>0</td><td>円</td></tr></table>				経費	金額	摘要		報酬	318,000円	スポーツ推進委員報酬	円	報償費	380,000円	全国大会出場選手奨励金 ほか	350,000円	委託料	7,791,216円	社会体育振興事業委託料(伊賀市スポーツ協会)	3,997,408円			青少年スポーツ活動育成事業委託料(伊賀市スポ少)	3,100,000円			円 美し国三重市町対抗駅伝事業委託料 ほか	397,780円	備品購入費	24,200円	オリンピック採火イベント用ハクキンカイロ	24,200円	負担金・補助金及び交付金	8,513,987円	伊賀上野シティマラソン事業補助金	1,600,000円			円 伊賀市スポーツ協会運営補助金	3,305,000円			円 伊賀フットボールクラブくノ一運営助成金 ほか	3,608,987円	その他	111,406円	需用費、役務費、積立金	円	計	17,138,809円	0	円
	経費	金額	摘要																																																	
	報酬	318,000円	スポーツ推進委員報酬	円																																																
	報償費	380,000円	全国大会出場選手奨励金 ほか	350,000円																																																
	委託料	7,791,216円	社会体育振興事業委託料(伊賀市スポーツ協会)	3,997,408円																																																
			青少年スポーツ活動育成事業委託料(伊賀市スポ少)	3,100,000円																																																
			円 美し国三重市町対抗駅伝事業委託料 ほか	397,780円																																																
	備品購入費	24,200円	オリンピック採火イベント用ハクキンカイロ	24,200円																																																
	負担金・補助金及び交付金	8,513,987円	伊賀上野シティマラソン事業補助金	1,600,000円																																																
			円 伊賀市スポーツ協会運営補助金	3,305,000円																																																
			円 伊賀フットボールクラブくノ一運営助成金 ほか	3,608,987円																																																
	その他	111,406円	需用費、役務費、積立金	円																																																
	計	17,138,809円	0	円																																																

補助金等詳細

全体コスト(千円)	事業費	直接事業費	項目	R2年度決算	R3年度当初予算	R3年度決算	R4年度当初予算	特記事項記入欄(積算基礎、特定財源の名称等)
			国県支出金	0	0	0		【その他特定財源】 独親善少年サッカー交流基金利子 と応援基金
			地方債	0	0	0		
			その他	1,992	3,063	3,065		
			一般財源	16,751	20,979	14,074		
			合計(A)	18,743	24,042	17,139	0	
		人件費	正規職員	業務量 3.07 人	3.07 人	2.57 人	3.73 人	
				人件費 23,980	23,836	19,954	28,860	
			再任用職員	業務量 0.00 人	0.00 人	0.00 人	0.00 人	
				人件費 0	0	0	0	
			会計年度任用職員	業務量 0.00 人	0.00 人	0.00 人	0.00 人	
				人件費 0	0	0	0	
		小計(B)		23,980	23,836	19,954	28,860	
		合計(A+B)		42,723	47,878	37,093	28,860	
		市民1人当たりのコスト(円)		472	537	416	329	

指標	指標名	指標の説明	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	成人のスポーツ活動実施率	成人が1週間に1回以上スポーツを行う割合	%	目標	53.6	55.0	57.0	60.0
				実績	53.6			
指標化できない成果		0	達成	100.0				

方向	改善	課題	市民等が生活の中にスポーツを取り入れ、健康で豊かな生活を営めることを目指し、課題などを整理したうえで少子高齢化やスポーツ離れ、また新たなスポーツニーズへの対応など気軽にスポーツを楽しめる実施環境や実施機会を整え、スポーツ振興を図る必要がある。 また、アフターコロナ等を見据え「新しい生活様式」にも配慮し、イベントの在り方について検討が必要である。
		改善案	市民アンケートなどを通じて、現状の課題を整理したうえで体系的なスポーツ振興の方針などを明らかにした「伊賀市スポーツ推進計画」の策定に着手しており、これを基に気軽にスポーツに触れ合うイベントである「市民スポーツフェスティバル」へレクリエーション種目の追加や参加要件を見直すなどのリニューアルを行うため、各種スポーツ団体との協議を行う。 アフターコロナを見据え感染防止を図りながらイベントの実施方法を検討する。

補助事業名	伊賀フットボールクラブ運営助成金					施策No.	6-2-③		
交付の目的	伊賀フットボールクラブくノ一の活動支援に加え、幼少年に対する巡回スポーツ教室によるスポーツ振興や市の観光PRなどシビックプライドの醸成を図る事など目的とする。								
交付先・交付要件									
事業内容	伊賀フットボールクラブくノ一の活動費の一部補助								
根拠法令等	企画振興部関係補助金等交付要綱								
事業開始年度	平成16年度					契約・債務負担	無		
財源・率	－					上乗せ・範囲拡大	無		
補助実績等 （千円）	H26	3, 000	H27	3, 000	H28	3, 000	H29	3, 000	
	H30	4, 500	R1	4, 500	R2	4, 500	R3	4, 500	
目的の達成状況 （何が、どうなれば達成か）									
補助対象経費	事業の開催・運営並びに活動に要した経費								
補助金額・補助率 の算出根拠	チーム運営経費については新たなファンの獲得などを図りつつ、市民のスポーツへの関心を高めるためホームゲーム経費、並びに地域のスポーツ振興に要する事業経費		類似制度、同一団体への重複補助の有無		無		終期設定の有無		無
性質別分類	4. その他事業費補助		「団体運営補助」である場合の事業費補助への移行策		無				

●見直し目標の設定及び経過措置(指針「4 見直しの方向性と経過措置」参照)

今後の方向性		継続	その理由	チーム運営については新たなファン層の開拓などによる自己資本を確保することで自立した活動を目指す。またスポーツ振興や観光PRなど地域貢献事業は新たなメニューの開拓や実施方法を検討する。	
見直し事項	具体的な内容(いつまでに、事項を、どうする)				
	補助制度	無		対象と金額	無

●補助金等の評価(指針「5 その他の取り組み」参照) ※実績確定後、年度ごとに記入

	評価結果	立入調査その他監督の実施状況	改善点・今後の予定・見直しの実施状況
平成30	なでしこリーグ2部で見事優勝し、1年で1部復帰を果たした。また、国体でも優勝し、チームの強化に成功した。地域でもイベントなどに参加し交流を深めることができた。	事業修了後、実績報告書の審査、聞き取り調査を実施した。	観光大使である伊賀FCくノ一が、なでしこリーグに参加し続けることは、地域活性化に必要であるため、活動しやすい環境作り支援を継続する。
令和元年	1部復帰を果たした年になるため、厳しい戦いが予想されたが、1部で4位と言う好成績を残した。国体でも、昨年に続き優勝を果たし、年度初めの選手強化も成功した。また、地域でもイベントなどに参加し交流を深めることができた。	事業修了後、実績報告書の審査、聞き取り調査を実施した。	観光大使である伊賀FCくノ一が、なでしこリーグに参加し続けることは、地域活性化に必要であるため、活動しやすい環境作り支援を継続する。
令和2年	なでしこリーグ9位の成績であり次年度に期待をする。コロナ禍の影響を受け地域活動の縮小はあったが、メディア等の協力もあり観客動員を得ることができた。	事業修了後、実績報告書の審査、聞き取り調査を実施した。	観光大使である伊賀FCくノ一が、なでしこリーグに参加し続けることは、地域活性化に必要であるため、活動しやすい環境作り支援を継続する。
令和3年	コロナ禍の影響を受け、途中無観客での開催や保育所訪問など活動の縮小はあったものの、所属する「なでしこ1部リーグ」で22年ぶりの優勝を果たし、市民への「みるスポーツ」普及の為の伊賀市民デーを開催した。	事業修了後、実績報告書の審査、聞き取り調査を実施した。	なでしこリーグに参加し続けることは、地域スポーツや観光大使に就任するなど市のシビックプライド醸成の観点からも非常に大きなインパクトがあることから実施内容により支援を継続する。

●補助金等の見直し基準における基本的事項の再チェック(指針「3 見直し対象と基準」参照)

区分	項目	チェック	備考
公益性	「公益上必要である」ことが客観的に認められるものである。	○	
必要性・効果	事業活動の目的・視点・内容などが経済情勢に合致している。	○	
	市民の福祉向上及び利益の増進に効果が認められる。	○	
	市が補助すべき事業・活動であり、施策の推進に有効である。	○	
	補助金の額や補助率に対して、費用対効果が適切である。	○	
公平性	地域間で補助対象、補助基準、支出科目にばらつきはない。	○	
	同一分野のなかで、特定団体(地域)を対象とした補助金ではない。	-	女子サッカーアマチュアトップリーグを頂点とした地域貢献は当該団体でしかない。
団体の自立性	毎年同内容の事業に対して、3年以上補助を受けていない。	○	
	自主財源の確保など、自らの努力で団体運営を行う姿勢がある。	○	

見直しの視点	質問/所属回答						専門家チームからのアドバイス・考え方
	専門家チーム	所属	専門家チーム	所属	専門家チーム	所属	内容
法的根拠							伊賀市は全体的に個別の補助金要綱が定まっていない。例えば、企画振興部補助金要綱として一括して規定されており、交付率が決められておらず、「予算に定める額」としか規定されているのは極めて不十分である。本来は、補助対象経費を定め、単価から積算し、積み上げた結果から補助額を決定するような方法に要綱を改める必要がある。
積算根拠	この補助金は定額補助という認識でよいか？	補助要綱では予算に定める額となっているが、予算の範囲内でチームが行っている活動に対して補助している。経費の積み上げは行っていないが、事業に対しての補助ではある。	補助金額450万円の積算根拠は？	元々は300万円の補助金があった。市の直営で別に事業として「忍びの里レディーストーナメント大会」(経費150万円)を開催していたが、それを伊賀フットボールクラブくノーにまかせる形で450万円の補助額となった。			補助金額ありきの事業計画になっている可能性があるため、事業の積み上げによる補助にすべきである。原則として事業費補助に見直すべき。
終期設定							3年ごとの終期は必ず設定し、必要に応じて継続するようにするべき。
自己負担・決算内容	NPO団体の地域貢献活動が補助の目的となるなら、当初の目的である「伊賀フットボールクラブくノーの運営・活動の支援を図る。」から大きく変わってくるのではないか。	他のNPOとの違いとして、トップになでしこリーグがあるということである。更に日本サッカー協会では、グラブホームタウン構想があり女子サッカーの人材育成、ホームに対する地域貢献活動が含まれている。この部分が他のNPOと差別化されていると理解している。	クラブ負担金(882,000円)について説明されたい。	サッカー教室などの月謝を歳入として計上しているのではないかと思う。	事業収支決算書の支出に記載されているホームゲーム運営費3,979,000円は、以前はNPOで負担していたものを、R4年度からは株式会社の負担に変更したとの理解でよいか？	その通りである。地域貢献など公益性の高い取り組みを補助金の対象とするため変更した。	セルの塗りつぶし内容について ・・・全庁的な指摘事項（個別の意見聴取せずに全庁で取り組むべき内容） ・・・個別の指摘事項として、下で「対応方針」を確認する内容
	事業収支決算書では、何に対して補助するのかが明確にされていない結果、後付けの理由で交付額に合わせる形で決算報告書が作成されているように見受けられる。例えば、ネーミングライツが挙げられるが、その取組みに対して市が補助することに問題は無いのか？	企業である伊賀鉄道が行う一般的な乗車促進事業への支出であるので、一概的に問題があるとは言えないと考える。	伊賀フットボールクラブくノーのスポンサーについて説明されたい？	100社を目指すことを計画されている。アマチュアチームなので、チームの選手は規模の大きいスポンサー企業が全員を雇用している。	伊賀市は株式会社伊賀FCくノーの株主か？	伊賀市は株主ではない。	
	総合型スポーツクラブは事務事業評価シートに含まれているのか。	事務事業評価シートに記載の委託料欄7,791,216円に含まれている。	興行収入20万円の予算額に対して、決算額が0円というのは、コロナで活動が出来なかったということか？	その通りである。令和4年度からは興行収入を株式会社伊賀FCくノーに切り分けた。			
公益性							
公平性・透明性	他課所管で当団体への補助はないか？	補助はない。					伊賀フットボールクラブくノーに対してだけ、なぜこれだけの補助をするのかという合理的な理由を整理しておくべきである。
	他団体へ補助しているようなものはあるか？	委託というかたちで他団体への支援はある。例えば、地域に総合型スポーツクラブとして団体を設立されている場合に、ウォーキング大会などを委託している。					
行政関与の必要性	株式会社が設立されるまでは、プロチームの運営に対して補助していたのか？	チームは、現在アマチュアリーグに所属している。WEリーグは昨年に設立され、男子リーグでいうとJ1～J3である。WEリーグの下にアマチュアの「なでしこリーグ」があり、2部制をとっている。「くノー」はその1部に所属している。					プロ、アマチュアに関わらず選手の支援が趣旨と思うが、補助金見直しの視点では、行政としての目標、補助対象、積算根拠を明らかにすべきである。そうしないと、極めて不透明な補助金になってしまう。精査が必要。
補助の効果（成果指標）							伊賀フットボールクラブくノーへの活動に対する補助の結果、どのような成果があったかの視点で設定すべきである。この補助事業の効果を直接的に測ることができる指標を設定するべき。
今後の方向性							補助金管理シートの評価結果を前例踏襲ではなく毎年評価していることは素晴らしい。
他事業への横展開							

個別論点ごと	見直しの視点	指摘事項	対応方針	いつまでに
	公平性・透明性	伊賀フットボールクラブくノーに対してだけ、なぜこれだけの補助をするのかという合理的な理由を整理しておくべきである。	他の団体にはない女子サッカートップチームである「伊賀FCくノー三重」を頂点とした地域スポーツのブランド力を活用しつつ、伊賀市スポーツ推進計画に定める基本目標であるスポーツを「する」「みる」「ささえる」を担う当該NPO団体の事業について、チーム運営に関する部分とスポーツ振興（地域貢献）に関する部分を明確化する。	令和4年度から補助対象を地域貢献活動とすることとしているが、補助率等について予算に定める額としているため、現状の部単位の補助金要綱改正に併せ明確化することとする。
	行政関与の必要性	プロ、アマチュアに関わらず選手の支援が趣旨と思うが、行政関与の目標、補助対象、積算根拠を明らかにすべきである。	補助要綱では「予算に定める額」とされているが、従前より補助団体から事業費を積み上げたものを提出させ、その総額と予算額を比較している。	
	積算根拠	補助金額ありきの事業計画になっている可能性があるため、事業の積み上げによる補助にすべきである。原則として事業費補助に見直していただきたい。		
本事業に関する今後の部局方針		抑制		
上記理由		本来社会（地域）貢献は、各団体の体力に応じた自主的な取り組みであることから、補助対象や自主財源の確保などの状況に配慮しつつ段階的な縮小が適当と思われる		

①

諮問時の視点	●要綱改正に合わせて明確にするとあるが、直ぐにでも取り組むべき内容ではないか。 ●部局の方針に示されている通り、縮小に向けて段階的に取り組むことが望ましいと考える。そのうえで交付先団体といつまでにどれだけ縮小するのかの検討し、その調整期間として来年度中とすることが妥当ではないか。
--------	---

②

審査結果	
上記審査結果に対して付される意見	
その他審査時の主な意見	

行政事務事業評価審査委員会